

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 20018

建築物名称	新部分肉流通施設(仮称)
建築主	公益財団法人日本食肉流通センター 理事長 小林 裕幸
建築物の所在地	川崎市川崎区東扇島24番地
設計者氏名、建築士事務所名	小笠原 一然 株式会社梓設計 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	10,278.14m ²
用途	倉庫
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上4階
工事完了年月	令和4年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		20018
建物名称	新部分肉流通施設(仮称)	階数	地上4F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市川崎区東扇島24番地	構造	RC造	
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	150 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	3,300 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2020年8月1日	
敷地面積	101,396 m ²	作成者	小笠原一然	
建築面積	7,372 m ²	確認日	2020年8月1日	
延床面積	10,278 m ²	確認者	小笠原一然	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8 ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.9

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合 敷地境界沿いに緑地を設け周辺のまちなみと調和を図る	1.7/4.3	1.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔を確保し風の流れを妨げないよう工夫した	0.3/0.8	2.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.4
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	外壁、屋根に実用上問題のない断熱性能を確保した 事務室等にはブラインドを設置しレア発生を制御する	0.4/0.7	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合	0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BPI _m]=0.77 [BEI][BEI _m]=0.80	3.4/5.0	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水型機器を採用 主要構造躯体のコンクリート強度はF _c =36とする ODP=0の冷媒を使用	2.6/4.7	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔を確保し風の流れを妨げないよう工夫した	0.3/0.8	2.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	2.9
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数に配慮した材料を選定	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水型機器を採用 主要構造躯体のコンクリート強度はF _c =36とする	2.2/4.0	2.7
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	排出基準に定められた基準を満たす既存排水処理施設を経由する	0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.1
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合	0.5/2.3	1.0
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BPI _m]=0.77 [BEI][BEI _m]=0.80	3.4/5.0	3.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	隣棟間隔を確保し風の流れを妨げないよう工夫した	0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.4**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	建築基準法の規定に適合	0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	[BPI _m]=0.77 [BEI][BEI _m]=0.80	3.4/5.0	3.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		G	W	R	H	評価点	重み係数	評価点	重み係数					
Q 建築物の環境品質													2.5	
Q1 室内環境										0.30		-	2.8	
1 音環境						3.0	0.15					-	3.0	
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40				3.0	-		
1.2 遮音						3.0	0.40					-		
1 開口部遮音性能						3.0	0.60				3.0	-		
2 界壁遮音性能						3.0	0.40				3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-				3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-				3.0	-		
1.3 吸音						3.0	0.20				3.0	-		
2 温熱環境						2.4	0.35					-	2.4	
2.1 室温制御						3.0	0.50					-		
1 室温			W			3.0	0.38				3.0	-		
2 外皮性能						3.0	0.25				3.0	-		
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38					-		
2.2 湿度制御						3.0	0.20				3.0	-		
2.3 空調方式						1.0	0.30				3.0	-		
3 光・視環境						2.8	0.25					-	2.8	
3.1 昼光利用						3.0	0.30					-		
1 昼光率						3.0	0.60				3.0	-		
2 方位別開口							-				3.0	-		
3 昼光利用設備			W			3.0	0.40				3.0	-		
3.2 グレア対策						3.0	0.30					-		
1 昼光制御			W			3.0	1.00				3.0	-		
3.3 照度						2.0	0.15				3.0	-		
3.4 照明制御						3.0	0.25				3.0	-		
4 空気質環境						3.3	0.25					-	3.3	
4.1 発生源対策						3.0	0.50					-		
1 化学汚染物質						3.0	1.00				3.0	-		
4.2 換気						3.3	0.30					-		
1 換気量						4.0	0.33	居室の換気量は建築基準法及び建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍の値にて計画			3.0	-		
2 自然換気性能						3.0	0.33				3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33				3.0	-		
4.3 運用管理						4.0	0.20					-		
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50					-		
2 喫煙の制御						5.0	0.50	建物内は全て禁煙として運用				-		

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	2.8	
1 機能性									2.5	
1.1 機能性・使いやすさ									2.0	
1	広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-	3.0	
2	高度情報通信設備対応				2.0	0.33	5.0	-	5.0	
3	バリアフリー計画				1.0	0.33	-	-	-	
1.2 心理性・快適性									2.3	
1	広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-	3.0	
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	-	
3	内装計画				1.0	0.33	-	-	-	
1.3 維持管理									3.5	
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-	-	
									各階トイレに清掃用流しを計画し、1階清掃用倉庫には洗濯機置場と手洗いを設置	
2 耐用性・信頼性									2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.0	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-	-	
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.1	
1	躯体材料の耐用年数		R		3.0	0.20	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R		2.0	0.20	-	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R		3.0	0.10	-	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R		4.0	0.10	-	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R		4.0	0.20	-	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		R		3.0	0.20	-	-	-	
									屋外ダクトや厨房排気ダクトにはステンレス鋼板、ガルバリウム鋼板同等品を採用 主要な用途上位3種の2種類以上にC以上を使用	
2.4 信頼性									2.8	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	-	
2	給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	-	
3 対応性・更新性									3.2	
3.1 空間のゆとり									3.4	
1	階高のゆとり				5.0	0.60	3.0	-	3.0	
2	空間の形状・自由さ				1.0	0.40	5.0	-	5.0	
3.2 荷重のゆとり									3.0	
3.3 設備の更新性									3.2	
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-	-	
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-	-	
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-	
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-	-	
5	設備機器の更新性				4.0	0.20	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	-	
									階高は4.0mにて計画	
									屋上の主要機器の更新スペース及び将来用増設設備基礎などを見込み計画	
Q3 室外環境(敷地内)									—	
1 生物環境の保全と創出				G	W				H	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W				H	1.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.0			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.4
1	建物外皮の熱負荷抑制	W	H	[BPI _m]=0.77	5.0	0.20	-	-	-	-	-	5.0	
2	自然エネルギー利用	W	H		3.0	0.10	-	-	-	-	-	3.0	
3	設備システムの高効率化	W	H	[BEI][BEI _m] = 0.80	3.0	0.50	-	-	-	-	-	3.0	
4	効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0	
	集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	-	-	-		
	4.1 モニタリング	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制	W	H		3.0	0.50	-	-	-	-	-		
	集合住宅の評価						-	-	-	-	-		
	4.1 モニタリング	W	H		3.0	-	-	-	-	-	-		
	4.2 運用管理体制	W	H		3.0	-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	2.7
1	水資源保護	W	R		3.4	0.20	-	-	-	-	-	3.4	
1.1	節水			節水型便器を採用	4.0	0.40	-	-	-	-	-		
1.2	雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	-	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.70	-	-	-	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	-	-	-		
2	非再生性資源の使用量削減				2.5	0.60	-	-	-	-	-	2.5	
2.1	材料使用量の削減	W	R		3.0	0.10	-	-	-	-	-		
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R		3.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W	R		1.0	0.20	-	-	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.10	-	-	-	-	-		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W	R		3.0	0.20	-	-	-	-	-		
3	汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	-	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.2	フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	-	-	-		
	1 消火剤	W			-	-	-	-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	W			3.0	0.50	-	-	-	-	-		
	3 冷媒	W			3.0	0.50	-	-	-	-	-		
LR3 数地外環境										0.30	-	-	2.9
1	地球温暖化への配慮	W		ライフサイクルCO2排出率91%	3.3	0.33	-	-	-	-	-	3.3	
2	地域環境への配慮				2.3	0.33	-	-	-	-	-	2.3	
2.1	大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	-	-	-		
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W	H	2.0	0.50	-	-	-	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制				2.5	0.25	-	-	-	-	-		
	1 雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
	3 交通負荷抑制		R		3.0	0.25	-	-	-	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制		R		1.0	0.25	-	-	-	-	-		
3	周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	-	-	-	3.1	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	-	-	-		
	1 騒音				3.0	1.00	-	-	-	-	-		
	2 振動				-	-	-	-	-	-	-		
	3 悪臭				-	-	-	-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	-	-	-		
	1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	-	-	-		
	2 砂塵の抑制				3.0	-	-	-	-	-	-		
	3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	-	-	-		
3.3	光害の抑制				3.7	0.20	-	-	-	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			敷地境界沿いの緑地帯にて外部に照明が漏れにくく、外壁サインは照明を設置しない計画	4.0	0.70	-	-	-	-	-		
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	-	-	-		